

## 実感して学ぶ税のありがたみ

美里町立中央中学校 3年 山下 幸奈

皆さんは「税」と聞くとどのようなことを思い浮かべますか。心の隅ではきちんと、税は私たちの生活を支えてくれる大切なもの、なくては困る大事なものと分かっているはず。ですが、パッと思い浮かぶのは高く払いたくない、正直どのくらい役に立っているのか分からない、果たして本当に税金に意味はあるのだろうか、というマイナスな思いだと思います。私も以前まであまり税金に対して良い印象は持っていませんでした。学校で租税教育を受けてもどこかまだ、ありがたみを実感することがなかったからです。しかし私はこの一年を通して、税金の大切さとありがたみを心から実感しました。

そのきっかけとなったのは父が癌を患い、働けなくなってからでした。母が専業主婦の私の家庭は収入源がなくなり、生活できなくなってしまいます。そこで私たちは生活保護を受けることになりました。生活保護というものは前から聞いたことがあったのですが詳しく調べたり学んだりせず、ましてや自身が受けることになることなど思ってもいませんでした。ケースワーカーの話を知っているうちに生活保護の仕組みが分かってきて、生活扶助費や医療扶助費が税金から出ていることを初めて知りました。

私が特に税金のありがたみを痛感したのは医療扶助です。癌を手術によって摘出し平穏な日々を過ごしていた父ですが、ある日の定期健診で骨盤に癌が転移していることが判明しました。骨への転移は手術ができず、抗がん剤での治療になります。その抗がん剤の値段に私は驚愕しました。定期的に打っている僅かな量の点滴と毎日服用している強い錠剤。なんとその値段は数十万円もしていたのです。癌が完全に治るまで百万円以上かかる医療費は自腹ではとてもじゃないですが払えません。生活保護を受けていなければそのまま癌の進行と、死を怯えながら待つことになっていたでしょう。父が今も闘病しながら元気に過ごせているのは紛れもなく税金のおかげなのです。

これまで税金をあまり良く思っていなかった過去の自分やそう思っている人に伝えたいことがあります。それはいつかあなたが困窮した状態に陥ったとき、光を与えてくれるのは税金かもしれないということです。人は困ったとき本当にそのもののありがたみを実感します。実感しなければ分からないことも沢山あるでしょう。そんなときでも一度自分の頭で良く考え、自分がこの状況に陥ったらどうなるか、どうすべきなのかを思い描くことでそのものの大切さやありがたみを少しでも感じることはできるのではないかと考えました。税金に対して国民一人一人が前向きに貢献していくことによって、どこかで困っている人を助け、光となれるならそれほど素晴らしいことはないでしょう。これからの日本が税金によって発展していく事を願っています。